

アノリス・アルログスに関する情報（案）

1. 学名

Anolis allogus

2. 一般名

Bueycito anole 等（和名なし）

3. 原産地

キューバ島（サパタ半島を除く）

4. 被害に係る評価

(1) 生態系に係る被害

1) 定着の可能性

- ・当該種は原産地では様々なタイプの環境に生息していることから、生息環境の変化に対する順応能力は比較的高いと想定される。野外に放逐されれば、日本でも温暖な地域を中心に定着する可能性がある。
- ・原産地では、雌は1年に複数回産卵することから繁殖力は比較的高い。
- ・なお、形態、分布、系統等の特性に基づき、アノール属の外来種としての定着しやすさの程度を比較した研究では、比較した235種の中で当該種は上位（34位）に位置づけられている。

2) 野外に逸出、分散する可能性

- ・未判定外来生物に指定された2006年以前の輸入や国内取引は皆無と考えられる。
- ・野外に放逐されて定着した場合、定着地から持ち出される農作物や物資等に紛れる非意図的な導入によって分布域を広げていく可能性が高い。

3) 被害の重大性

- ・アノール属では、ブラウンアノール (*Anolis sagrei*) やグリーンアノール (*A. carolinensis*)、ナイトアノール (*A. equestris*) など、外来種として定着して生態系影響を生じている例が複数知られている。
- ・小笠原諸島に定着したグリーンアノールは、希少種を含む昆虫類等を食害したり、在来トカゲの生息に悪影響を与えるなどして、生態系に甚大な被害を及ぼしている。また、在来ハナバチ類等の減少や絶滅によって送粉系がかく乱され、グリーンアノールとは被食-捕食関係にない植物の受粉にも問題が発生している。
- ・ブラウンアノールは、台湾など複数の地域に定着し、昆虫類等を食害したり、同所的に生息する在来トカゲ類に悪影響を与えるなどした事例が複数知られている。
- ・当該種が国内に移入すれば、昆虫類を中心に様々な在来の小型動物が捕食される

ことが予測される。例えば、在来のクモ類や等脚類、アリ類などが食害されるおそれがある。また、直接的な被食―捕食関係のない種に対しても影響が及ぶ可能性がある。

- 当該種の生態型（形態や環境利用等によって特徴づけられる生態学的特性）は、ブラウンアノールと同じ幹―地上生活型 [Trunk-ground]）に類別される。国内に定着すれば、餌や生息場所など類似の資源を利用する在来のトカゲ類や鳥類などと競合し、それらの生息に悪影響を与える可能性がある。例えば、オガサワラトカゲやオカダトカゲ、キノボリトカゲ等とは、食物や生息場所等をめぐって競合する可能性がある。

4) 防除の困難性

- 樹上や茂みを生息場所とすること、雌や幼体は隠蔽的で発見しにくいこと、繁殖力が比較的高いことなどから、野外での個体捕獲や管理は難しいと考えられる。万一、国内に定着した場合、生息状況の把握や防除には、困難が伴うことが予測される。
- 現在、小笠原諸島ではグリーンアノールの防除が進められているが、侵入地域全域からの根絶には至っていない。

(2) 人の生命・身体に係る被害

特になし

(3) 農林水産業に係る被害

特になし

5. 総合評価

- 原産地では、特定外来生物ブラウンアノールと分布や生息環境、生態的特性が大きく重複し、野外放逐されれば国内でも温暖地域を中心に定着するおそれがある。
- 国内に定着すれば、昆虫類などを食害したり、在来のトカゲ類、鳥類などと競合するなどして、生態系へ被害が及ぶことが懸念される。

<参考>

1. 生物学的特性および近縁種や類似種などについて

(1) アノール属について

- アノール属 (*Anolis* 属) は中米の大陸部と島嶼を中心に分布し、現在までに約 400 種が知られている。その半数近くはキューバ島を含むカリブ海の島嶼に分布している。

- ・本属は、四肢の指先が発達しており、垂直および平滑な面も登ることができる。
- ・喉下に発達した皮膚のひだを備え、これを動かして求愛や縄張誇示を行う。
- ・通常、1回に1個の卵を土中や植生の隙間等に産む。1シーズンに複数回産卵を行う。
- ・生息場所や食物、行動、形態等の特性における種内変異は一般に大きい場合が多い。また、人為的に移入された個体群においても、移入先の環境に応じて比較的短期間で生態的特性を変える事例が多く知られている。

(2) 当該種について

- ・系統的にブラウンアノールに近縁で、生態的特性は類似している。
- ・かつては別属 (*Norops* 属) に分類されることがあったが、最近は一アノール属として位置づけられることが多い。
- ・原産地であるキューバ島のほぼ全域に分布し、半落葉林、常緑林などに生息している。
- ・体サイズは比較的小さく、性的二型がある (平均頭胴長：オス：54.8mm、メス：42.6mm)。体色は暗褐色。
- ・おもに樹幹から地上部を生息場所とする。木の幹や低木、地上付近の茂みや岩の上などに定位していることが多く、日光浴はあまりしない。
- ・昆虫を中心に様々な小型動物を捕食する。基本的には餌を待ち伏せて捕食するが、季節によっては自ら移動して餌を探すこともある。
- ・危険を感じると、付近の植生や地上の隙間などに逃げ込む。
- ・アノール類の生態的特性を類別するに用いられる生態型では、幹-地上生活型 (Trunk-ground) に区分される。この生態型は他の型と比べて、体サイズは中間、後肢が長い、尾が長い、地面近くの樹幹や岩壁等の環境を利用する、などの特徴がある。
- ・寄生虫の宿主となる。原産地では1種の条虫と6種の回虫の宿主になっていることが知られている。

2. その他の関連情報

- ・同属のアノリス・アングスティケプス、グリーンアノール、ナイトアノール、ガーマンアノール、ブラウンアノールは、いずれも特定外来生物に指定されている。
- ・アノール属は、適応放散が著しい分類群であるため、生物進化を解明するための優良な材料であるとされ、学術的に利用されることが多い。また、グリーンアノールは全ゲノム配列が解読された最初の爬虫類となっている。
- ・当該種により昆虫類等が食害されると、それらに受粉を依存している栽培植物等の結実にも影響が及ぶ可能性がある。さらに、農作物の害虫の天敵となっている

在来種が捕食される可能性もある。

○ 主な参考文献

- Abe, T., S. Makino, and I. Okochi. (2008). Why have endemic pollinators declined on the Ogasawara Islands? *Biodiversity and Conservation* 19: 411-423.
- Gerber, G. P., and A. C. Echternacht. (2000). Evidence for asymmetrical intraguild predation between native and introduced *Anolis* lizards. *Oecologia* 124: 599-607.
- Huang, S. C., G. Norval, and I. M. Tso. (2008). Predation by an exotic lizard, *Anolis sagrei*, alters the ant community structure in betelnut palm plantations in southern Taiwan. *Ecological Entomology* 33: 569-576.
- Huang, S. C., G. Norval, C. S. Wei, and I. M. Tso. (2008). Effects of the brown anole invasion and betelnut palm planting on arthropod diversity in southern Taiwan. *Zoological Science* 25: 1121-1129.
- Latella, I. M., S. Poe, and J. T. Giermakowski. (in press). Traits associated with naturalization in *Anolis* lizards: comparison of morphological, distributional, anthropogenic, and phylogenetic models. *Biological Invasions* DOI 10.1007/s10530-010-9873-x.
- Losos, J. B. (2009). *Lizards in an Evolutionary Tree: Ecology and Adaptive Radiation of Anoles*. University of California Press, Berkeley.
- Losos, J. B., M. Leal, R. E. Glor, K. de Queiroz, P. E. Hertz, L. Rodríguez Schettino, A. Chamizo Lara, T. R. Jackman, and A. Larson. 2003. Niche lability in the evolution of a Caribbean lizard community. *Nature* 424: 542-545
- Norval, G. and J. J. Mao. (2007). Can *Anolis sagrei* be unintentionally transported to new localities in bamboo stem bundles? *Sauria* 29: 51-54.
- Norval G, W. F. Hsiao, S. C. Huang, C. K. Chen. (2010). The diet of an introduced lizard species, the brown anole (*Anolis sagrei*), in Chiayi County, Taiwan. *Russian Journal of Herpetology* 17: 131-138.
- Rodríguez Schettino, L. (1999). *The Iguanid Lizards of Cuba*. University Press of Florida, Gainesville.

※ 下線は、今回会議で議題となるアノール属3種間で特に記述が異なっている部分を示す。

アノリス・アルタケウスに関する情報（案）

1. 学名

Anolis alutaceus

2. 一般名

Blue-eyed grass-bush anole、Monte Verde Anole 等（和名なし）

3. 原産地

キューバ島、フベントウ島

4. 被害に係る評価

（1）生態系に係る被害

1) 定着の可能性

- ・当該種は原産地では様々なタイプの環境に生息していることから、生息環境の変化に対する順応能力は比較的高いと想定される。野外に放逐されれば、日本でも温暖な地域を中心に定着する可能性がある。
- ・原産地では、雌は1シーズンに複数回産卵することから繁殖力は比較的高い。
- ・なお、形態、分布、系統等の特性に基づき、アノール属の外来種としての定着しやすさの程度を比較した研究では、比較した235種の中で本種は上位（49位）に位置づけられている。

2) 野外に逸出、分散する可能性

- ・未判定外来生物に指定された2006年以前の輸入や国内取引は皆無と考えられる。
- ・野外に放逐されて定着した場合、定着地から持ち出される農作物や物資等に紛れる非意図的な導入によって分布域を広げていく可能性が高い。

3) 被害の重大性

- ・アノール属では、ブラウンアノール (*Anolis sagrei*) やグリーンアノール (*A. carolinensis*)、ナイトアノール (*A. equestris*) など、外来種として定着して生態系影響を生じている例が複数知られている。
- ・小笠原諸島に定着したグリーンアノールは、希少種を含む昆虫類を食害したり、在来トカゲの生息に悪影響を与えるなどして、生態系に甚大な被害を及ぼしている。また、在来ハナバチ類等の減少や絶滅によって送粉系がかく乱され、グリーンアノールとは被食-捕食関係にない植物の受粉にも問題が発生している。
- ・ブラウンアノールは、台湾など複数の地域に定着し、昆虫類を食害したり、同所的に生息する在来トカゲ類に悪影響を与えるなどした事例が複数知られている。
- ・当該種が国内に移入すれば、昆虫類を中心に様々な在来の小型動物が捕食される

ことが予測される。例えば、在来のバツタ類やクモ類などが食害されるおそれがある。また、直接的な被食－捕食関係のない種に対しても影響が及ぶ可能性がある。

- ・当該種の生態型（形態や環境利用等によって特徴づけられる生態学的特性）は、草地－藪生活型 [Grass-bush] に類別される。国内に定着すれば、餌や生息場所など類似の資源を利用する在来のトカゲ類や鳥類などと競争し、在来種の生息に悪影響を与える可能性がある。例えば、アオカナヘビ、キノボリトカゲ等とは、食物や生息場所等をめぐって競合する可能性がある。

4) 防除の困難性

- ・樹上や茂みを生息場所とすること、雌や幼体は隠蔽的で発見しにくいこと、繁殖力が比較的高いことなどから、野外での個体捕獲や管理は難しいと考えられる。万一、国内に定着した場合、生息状況の把握や防除には、困難が伴うことが予測される。
- ・現在、小笠原諸島ではグリーンアノールの防除が進められているが、侵入地域全域からの根絶には至っていない。

(2) 人の生命・身体に係る被害

特になし

(3) 農林水産業に係る被害

特になし

5. 総合評価

- ・原産地では、特定外来生物ブラウンアノールと分布や生息環境、生態的特性が大きく重複し、野外放逐されれば国内でも温暖地域を中心に定着するおそれがある。
- ・国内に定着すれば、昆虫類などを食害したり、在来のトカゲ類、鳥類などと競合するなどして、生態系へ被害が及ぶことが懸念される。

<参考>

1. 生物学的特性および近縁種や類似種などについて

(1) アノール属について

- ・アノール属 (*Anolis* 属) は中米の大陸部と島嶼を中心に分布し、現在までに約 400 種が知られている。その半数近くはキューバ島を含むカリブ海の島嶼に分布している。
- ・本属は、四肢の指先が発達しており、垂直および平滑な面も登ることができる。

- ・喉下に発達した皮膚のひだを備え、これを動かして求愛や縄張誇示を行う。
- ・通常、1回に1個の卵を土中や植生の間等に産む。1シーズンに複数回産卵を行う。
- ・生息場所や食物、行動、形態等の特性における種内変異は一般に大きい場合が多い。また、人為的に移入された個体群においても、移入先の環境に応じて比較的短期間で生態的特性を変える事例が多く知られている。

(2) 当該種について

- ・原産地であるキューバ島では、半落葉樹や常緑樹、熱帯林の低木林や二次林に生息している。
- ・体サイズは、比較的小さい(平均頭胴長：オス：34.1 mm、メス：32.9 mm)。体色は褐色で、淡褐色の背中線が入る。体色には、多くの場合、同一個体群内に2タイプがみられる(背中線が明瞭なタイプと不明瞭なタイプ)。
- ・おもに地上付近の低木や藪、草むらを生息場所とする。低木や草本の枝や葉に定位することが多い。日光浴はしないとされている。
- ・昆虫を中心に様々な小型節足動物を捕食する。アリを高い頻度で利用する例も知られている。基本的には餌を待ち伏せて襲う捕食者であるが、季節によっては自ら移動して餌を探すこともある。
- ・移動能力は比較的高く、植生の間を跳び回って移動する。
- ・危険を感じると、付近の植生や地上の隙間などに逃げ込む。
- ・アノール類の生態的特性を類別するのに用いられる生態型では、草地-藪生活型(Grass-Bush型)に区分される。この生態型は、他の型と比べて、体サイズが小さい、体型が細長い、後肢が長い、尾が非常に長い、地面近くの細い植生を利用する、などの特徴がある。

2. その他の関連情報

- ・同属のアノリス・アングスティケプス、グリーンアノール、ナイトアノール、ガーマンアノール、ブラウンアノールは、いずれも特定外来生物に指定されている。
- ・アノール属は、適応放散が著しい分類群であるため、生物進化を解明するための優良な材料であるとされ、学術的に利用されることが多い。また、グリーンアノールは全ゲノム配列が解読された最初の爬虫類となっている。
- ・当該種により昆虫類等が食害されると、それらに受粉を依存している栽培植物等の結実にも影響が及ぶ可能性がある。さらに、農作物の害虫の天敵となっている在来種が捕食される可能性もある。

○ 主な参考文献

- Abe, T., S. Makino, and I. Okochi. (2008). Why have endemic pollinators declined on the Ogasawara Islands? *Biodiversity and Conservation* 19: 411-423.
- Gerber, G. P., and A. C. Echternacht. (2000). Evidence for asymmetrical intraguild predation between native and introduced *Anolis* lizards. *Oecologia* 124: 599-607.
- Huang, S. C., G. Norval, and I. M. Tso. (2008). Predation by an exotic lizard, *Anolis sagrei*, alters the ant community structure in betelnut palm plantations in southern Taiwan. *Ecological Entomology* 33: 569-576.
- Huang, S. C., G. Norval, C. S. Wei, and I. M. Tso. (2008). Effects of the brown anole invasion and betelnut palm planting on arthropod diversity in southern Taiwan. *Zoological Science* 25: 1121-1129.
- Latella, I. M., S. Poe, and J. T. Giermakowski. (in press). Traits associated with naturalization in *Anolis* lizards: comparison of morphological, distributional, anthropogenic, and phylogenetic models. *Biological Invasions* DOI 10.1007/s10530-010-9873-x.
- Losos, J. B. (2009). *Lizards in an Evolutionary Tree: Ecology and Adaptive Radiation of Anoles*. University of California Press, Berkeley.
- Losos, J. B., M. Leal, R. E. Glor, K. de Queiroz, P. E. Hertz, L. RodríguezSchettino, A. Chamizo Lara, T. R. Jackman, and A. Larson. 2003. Niche lability in the evolution of a Caribbean lizard community. *Nature* 424: 542-545
- Norval, G. and J. J. Mao. (2007). Can *Anolis sagrei* be unintentionally transported to new localities in bamboo stem bundles? *Sauria* 29: 51-54.
- Norval G, W. F. Hsiao, S. C. Huang, C. K. Chen. (2010). The diet of an introduced lizard species, the brown anole (*Anolis sagrei*), in Chiayi County, Taiwan. *Russian Journal of Herpetology* 17: 131-138.
- Rodríguez Schettino, L. (1999). *The Iguanid Lizards of Cuba*. University Press of Florida, Gainesville.

※ 下線は、今回会議で議題となるアノール属3種間で特に記述が異なっている部分を示す。

アノリス・ホモレキスに関する情報（案）

1. 学名

Anolis homolechis

2. 一般名

Habana Anole、Cuban white-fanned anole 等（和名なし）

3. 原産地

キューバ島、フベントゥ島、カナレオス諸島（Canarreos Archipelago）、サンフェリペ島（Cayos de San Felipe）

4. 被害に係る評価

（1）生態系に係る被害

1) 定着の可能性

- ・当該種は原産地では様々なタイプの環境に生息していることから、生息環境の変化に対する順応能力は比較的高いと想定される。野外に放逐されれば、日本でも温暖な地域を中心に定着する可能性がある。
- ・原産地では、雌は1シーズンに複数回産卵することから繁殖力は比較的高い。
- ・なお、形態、分布、系統等の特性に基づき、アノール属の外来種としての定着しやすさの程度を比較した研究では、比較した235種の中で本種は上位（27位）に位置づけられている。

2) 野外に逸出、分散する可能性

- ・未判定外来生物に指定された2006年以前の輸入や国内取引は皆無と考えられる。
- ・野外に放逐されて定着した場合、定着地から持ち出される農作物や物資等に紛れる非意図的な導入によって分布域を広げていく可能性が高い。

3) 被害の重大性

- ・アノール属では、ブラウンアノール（*Anolis sagrei*）やグリーンアノール（*A. carolinensis*）、ナイトアノール（*A. equestris*）など、外来種として定着して生態系影響を生じている例が複数知られている。
- ・小笠原諸島に定着したグリーンアノールは、希少種を含む昆虫類を食害したり、在来トカゲの生息に悪影響を与えるなどして、生態系に甚大な被害を及ぼしている。また、在来ハナバチ類等の減少や絶滅によって送粉系がかく乱され、グリーンアノールとは被食―捕食関係にない植物の受粉にも問題が発生している。
- ・ブラウンアノールは、台湾など複数の地域に定着し、昆虫類を食害したり、同所的に生息する在来トカゲ類に悪影響を与えるなどした事例が複数知られている。

- ・当該種が国内に移入すれば、昆虫類を中心に様々な在来の小型動物が捕食されることが予測される。例えば、在来のクモ類や等脚類、アリ類などが食害されるおそれがある。また、直接的な被食－捕食関係のない種に対しても影響が及ぶ可能性がある。
- ・当該種の生態型（形態や環境利用等によって特徴づけられる生態学的特性）は、ブラウンアノールと同じ幹－地上生活型 [Trunk-ground]）に類別される。国内に定着すれば、餌や生息場所など同様の資源を利用する在来のトカゲ類、鳥類などと競合し、それらの生息に悪影響を与える可能性がある。例えば、オガサワラトカゲやオカダトカゲ、キノボリトカゲ等とは、食物や生息場所等をめぐって競合する可能性がある。

4) 防除の困難性

- ・樹上や茂みを生息場所とすること、雌や幼体は隠蔽的で発見しにくいこと、繁殖力が比較的高いことなどから、野外での個体捕獲や管理は難しいと考えられる。万一、国内に定着した場合、生息状況の把握や防除には、困難が伴うことが予測される。
- ・現在、小笠原諸島に定着している同属種グリーンアノールの防除が進められているが、侵入地域全域からの根絶には至っていない。

(2) 人の生命・身体に係る被害

特になし

(3) 農林水産業に係る被害

特になし

5. 総合評価

- ・原産地では、特定外来生物ブラウンアノールと分布や生息環境、生態的特性が大きく重複し、野外放逐されれば温暖地域を中心に定着するおそれがある。
- ・国内に定着すれば、昆虫類などを食害したり、在来のトカゲ類、鳥類などと競合するなどして、生態系へ被害が及ぶことが懸念される。

<参考>

1. 生物学的特性および近縁種や類似種などについて

(1) アノール属について

- ・アノール属 (*Anolis* 属) は中米の大陸部と島嶼を中心に分布し、現在までに約 400 種が知られている。その半数近くはキューバ島を含むカリブ海の島嶼に分布している。

- ・本属は、四肢の指先が発達しており、垂直および平滑な面も登ることができる。
- ・喉下に発達した皮膚のひだを備え、これを動かして求愛や縄張誇示を行う。
- ・通常、1回に1個の卵を土中や植生の隙間等に産む。1シーズンに複数回産卵を行う。
- ・生息場所や食物、行動、形態等の特性における種内変異は一般に大きい場合が多い。また、人為的に移入された個体群においても、移入先の環境に応じて比較的短期間で生態的特性を変える事例が多く知られている。

(2) 当該種について

- ・系統的にブラウンアノールに近縁で、生態的特性は類似している。
- ・かつては別属 (*Norops* 属) に分類されることがあったが、最近は一アノールトカゲ属として位置づけられることが多い。
- ・原産地であるキューバ島では低地から山岳帯まで広く分布し、あらゆるタイプの森林や二次林、プランテーション等に生息している。
- ・体サイズは比較的小さく、性的二型がある (平均頭胴長：オス：53.8 mm、メス：40.5 mm)。体色は暗褐色。
- ・おもに樹幹から地上部を生息場所とする。木の幹や低木、地上付近の茂みや岩の上などに定位していることが多い。日光浴をするが、地域によってはほとんど直射日光が差さない林内に生息する場合がある。
- ・昆虫を中心に様々な小型節足動物を捕食する。基本的には餌を待ち伏せて捕食するが、季節によっては、自ら移動して餌を探すこともある。
- ・走行能力は比較的高く、樹幹部や幹、地面を同じように移動できると考えられる。
- ・危険を感じると、付近の植生や地上の隙間などに逃げ込む。
- ・アノール類の生態的特性を類別するのに用いられる生態型では、幹-地上生活型 (Trunk-ground) に区分される。この生態型は他の型と比べて、体サイズは中間、後肢が長い、尾が長い、地面近くの樹幹や岩壁等の環境を利用する、などの特徴がある。
- ・寄生虫の宿主となる。原産地では回虫 10 種の宿主になっていることが知られている。
- ・本種には 2 亜種 (*A. h. homolechis* と *A. h. turquinensis*) が知られており、体表や眼の虹彩の色彩等によって識別される。

2. その他の関連情報

- ・同属のアノリス・アングスティケプス、グリーンアノール、ナイトアノール、ガーマンアノール、ブラウンアノールは、いずれも特定外来生物に指定されている。
- ・アノール属は、適応放散が著しい分類群であるため、生物進化を解明するための

優良な材料であるとされ、学術的に利用されることが多い。また、グリーンアノールは全ゲノム配列が解読された最初の爬虫類となっている。

- 当該種により昆虫類等が食害されると、それらに受粉を依存している栽培植物等の結実にも影響が及ぶ可能性がある。さらに、農作物の害虫の天敵となっている在来種が捕食される可能性もある。

○主な参考文献

- Abe, T., S. Makino, and I. Okochi. (2008). Why have endemic pollinators declined on the Ogasawara Islands? *Biodiversity and Conservation* 19: 411-423.
- Gerber, G. P., and A. C. Echternacht. (2000). Evidence for asymmetrical intraguild predation between native and introduced *Anolis* lizards. *Oecologia* 124: 599-607.
- Huang, S. C., G. Norval, and I. M. Tso. (2008). Predation by an exotic lizard, *Anolis sagrei*, alters the ant community structure in betelnut palm plantations in southern Taiwan. *Ecological Entomology* 33: 569-576.
- Huang, S. C., G. Norval, C. S. Wei, and I. M. Tso. (2008). Effects of the brown anole invasion and betelnut palm planting on arthropod diversity in southern Taiwan. *Zoological Science* 25: 1121-1129.
- Latella, I. M., S. Poe, and J. T. Giermakowski. (in press). Traits associated with naturalization in *Anolis* lizards: comparison of morphological, distributional, anthropogenic, and phylogenetic models. *Biological Invasions DOI 10.1007/s10530-010-9873-x*.
- Losos, J. B. (2009). *Lizards in an Evolutionary Tree: Ecology and Adaptive Radiation of Anoles*. University of California Press, Berkeley.
- Losos, J. B., M. Leal, R. E. Glor, K. de Queiroz, P. E. Hertz, L. Rodríguez Schettino, A. Chamizo Lara, T. R. Jackman, and A. Larson. 2003. Niche lability in the evolution of a Caribbean lizard community. *Nature* 424: 542-545
- Norval, G. and J. J. Mao. (2007). Can *Anolis sagrei* be unintentionally transported to new localities in bamboo stem bundles? *Sauria* 29 (3): 51-54.
- Norval G, W. F. Hsiao, S. C. Huang, C. K. Chen. (2010). The diet of an introduced lizard species, the brown anole (*Anolis sagrei*), in Chiayi County, Taiwan. *Russian Journal of Herpetology* 17: 131-138.
- Rodríguez Schettino, L. (1999). *The Iguanid Lizards of Cuba*. University Press of Florida, Gainesville.

※ 下線は、今回会議で議題となるアノール属3種間で特に記述が異なっている部分を示す。